

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911（ファックスも同じ）

おぎはら健司の市政レポート

ネジレ解消が座間市にもたらすもの

平成26年がスタート致しました。皆さんはどのような新春をお迎えになられたのでしょうか。

昨年は国会（衆参）のネジレが解消をされたのと同時に、平成21年の民主党政権誕生で生じた『国と地方のネジレ』も完全解消をされた一年になりました。

国と地方のネジレは私が個人的に感じていたものですが、地方自治体の首長や議員は、私も含めていわゆる保守系が多数派で、地方の声が国政に届きにくい状況でした。象徴的なのは民主党政権誕生当時に幹事長だった小沢一郎さんが「陳情は全て民主党幹事長室を通さなければ扱わない」といった極端なもので、こうしたネジレが解消されたのが大きいと感じています。

前政権が党首討論で解散宣言をした平成24年11月14日に8,664円であった日経平均株価は、平成25年12月30日には16,291円へと、バブル期にもなかった一年余りで88%という上昇率を示しましたし、貿易立国である日本を苦しめてきた円安は対ドル為替レートで解散直前には79円51銭であったものが12月30日には105円30銭にまで是正されました。

また、雇用に関する数値では、完全失業率が0.2%改善され4.0%となり、さらに有効求人倍率も一昨年末の0.83倍からついに1.00倍と6年ぶりの数値へと改善されました。

これらの数値は、バブル崩壊後、特に平成20年のリーマンショック以降、閉塞感で埋め尽くされていた日本経済に、間違いなく回復の兆しが見えつつある事を示しているのではないのでしょうか。

一般市民、中小・零細企業にはその恩恵が届いていないという声もありますが、まずは八方塞りの状態から脱しつつあるという状況を歓迎すべきと考えております。あとは、この流れを多くの皆さんが実感できるよう、安倍内閣の柱である経済成長戦略の更なる推進を大いに期待を致しますし、それらの恩恵が座間市にいち早く届くよう努めて参ります。

国政と地方自治体・地方議会とのネジレ解消がもたらす効果として期待するのは、政府によって編成が進められている平成25年度補正予算と同26年度一般会計予算です。

具体的に申し上げますと、座間市のリクエストと国が用意するメニューには微妙なズレがある場合がありますが、それらを政府と直接交渉しながら調整が出来るという点で、私も過去の経験と人脈を生かして微力ながらに参画をさせて頂きましたが、補正予算では防災や減災に関する予算について、特に期待出来そうです。

ここで忘れてはならないのが、一般企業でいうところの内部留保に当たる「財政調整基金（財調）」が、昨年10月から半年間実施される市職員給与削減分等を加え13億円近い金額にまで積み増してきた座間市の努力に対する評価です。なぜなら、国の補助金を活用する際には、3分の1や4分の1といった地方自治体負担金が必要であり、その負担金の原資となる財調を積み増す事が出来たと言う点が重要だからです。

今年の仕事始め式で遠藤三紀夫市長は、箱根駅伝で優勝した東洋大学を例に挙げ「彼らは平成23年に早稲田大学に21秒差で負けた悔しさから『その一秒を削り出せ』をスローガンとし、翌年に歴代最高タイムで優勝を果たした。今年のチームはそのスローガンを左腕に刻み込み見事二年ぶりの優勝を果たされた。チャレンジをしなければ何も始まらない。我々も『その一秒を削り出す』という覚悟で行政執行に当たって参りたい」と檄を飛ばされました。

私も、行政サービスを充実させるため、削り出す事はもちろんですが、『その一秒を作り出す』ような提案を今年も行ってみます。

でも、遠藤市長は早稲田大学の出身ですから、本音は悔しかったのかもしれませんが（笑）。

座間市の数字「55,555」

毎月始め、座間市の人口や世帯数が発表されますが、最新の発表は1月1日に発表されました。

それによると、人口は男性65,238人、女性64,310人、合計129,548人と97人減少となっておりますが、世帯数は30世帯増えて55,555世帯になったとのこと。5が5つ並んだ数字を見て、正月早々、何だか得をした気分になりました。

とは言っても、人口は前月比でみると僅かながらですが減少傾向ですから素直には喜んではいられません...